



たよう しょくぶつ く ひょうこう こい くぼしつげん げんかんぐち
多様な植物が暮らす、標高550mの鯉が窪湿原の玄関口

ひょうこう ちゅうそうち こい くぼしつげん にし お ぜ よ しつげん にほん たいりくつづ
標高550mの中層地にある鯉が窪湿原は「西の尾瀬」とも呼ばれる湿原で、かつて日本が大陸続きで
あったころに満州、朝鮮、日本に広く分布していたと考えられる貴重な植物が多数自生しております。
まんちょうけい ざんりゅうしょくぶつ
満朝系の残留植物のオグラセンノウ、ビッチュウフウロ、ミコシギクなどをはじめとする300種類を超える
しょくぶつ じせい しょうわ ねん こい しつげんせいしょくぶつぐんらく くに てんねんき ねんぶつ してい
植物が自生しており、昭和54年には「鯉が窪湿生植物群落」として国の天然記念物に指定されました。
ご こい くぼしつげんしりょうかん へいせい ねん いこう しつげん もけい しっせいしょくぶつ しゃしん とお しつげん
その後、鯉が窪湿原資料館は平成13年にオープン以降、湿原の模型や湿生植物の写真を通して湿原の
みりよく しょうかい しつげん ほ ご つと
魅力を紹介し、湿原の保護に努めています。

◆ しせつ 施設のおすすめ

こい くぼしつげん ぐんせい しょくぶつ なか こい くぼしつげんしゅうへん きたきゅうしゅう ちょうせんほくぶ
鯉が窪湿原に群生している植物の中でもオグラセンノウは、この鯉が窪湿原周辺と北九州、朝鮮北部だけ
にしか群生しないととても貴重な植物です。7～9月ごろには花火がパッと弾けたような赤く鮮やかな花が
さ ぐんせい きちよう しょくぶつ がつ はなび はじ あか あざ はな
咲きます。また、当館に設置している鯉が窪湿原の模型で中心にある鯉が窪池を俯瞰していただくと、
まるで鯉が口をあけて泳いでいるような形をしていることがわかります。こうした模型から湿原の全体図
こい くち およ かたち もけい しつげん ぜんたいず
を感じていただき、ぜひ歩いて湿原の自然を体感してみてください。

◆ こ 子どもたちへのメッセージ

こい くぼしつげん こども おとな しぜん ぜんしん たいかん ばしょ しつげん
鯉が窪湿原は子供たちも大人も、のびのびと自然を全身で体感していただける場所です。湿原は2.4kmほどで
いっしゅう み おお しょくぶつ こんちゅう い もの
一周できるのでちょっとしたハイキングにもぴったりで、まちでは見られなかった多くの植物、昆虫、生き物が
はっけん じゅうけんきゅう しぜんたいけん かつよう
発見できるので、ぜひ自由研究や自然体験に活用してください。



こい かたち
鯉の形にみえるかな



しつげん いりぐち
湿原の入口



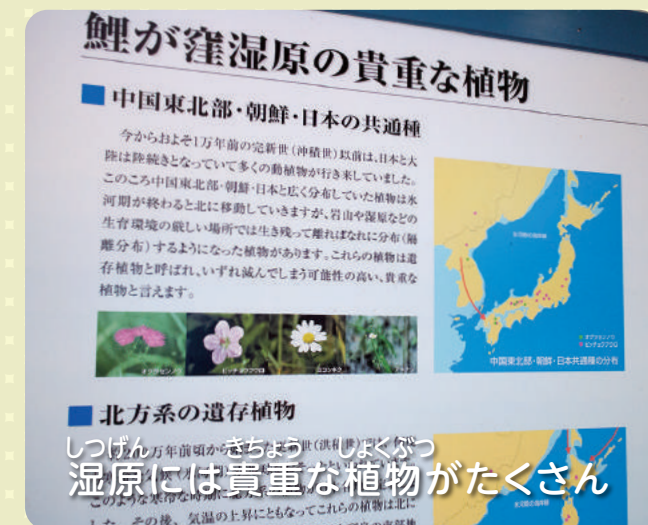
オグラセンノウ



ていねい せつめい
ガイドさんが丁寧に説明します



てんじ
展示スペース



しつげん せちよう せきりく いくぶつ
湿原には貴重な植物がたくさん



もけい しつげん
模型で湿原をチェック